

「環境カルタ」作りを通じた学校と地域の連携

三津野 真 澄

Collaboration of school and community through the making of an “Environmental Card Game”.

Masumi MITSUNO

I. はじめに

高等学校では平成15年度に新学習指導要領が開始されるが、その特徴のひとつに「総合学習」の新設があげられる。総合学習とは、学校自らが「人権、環境、国際理解」のテーマから1つ選択し、従来の教科・科目の枠にとらわれることなく総合的に運営・指導していくものである。総合学習には教科書や指導書といったものはなく、学校が主体となって指導内容を弾力的に決めることができ、その特徴を生かすために、複数の教員が関わったり、地域の人たちと連携をはかるようにとされている。

筆者は前任校である石川県立金沢泉丘高校に勤務していた平成10年度に、総合学習の研究を開始した。まず「環境」をテーマに選び、担当授業（理科）の「地学ⅠB」を実践研究の時間とし、生徒たちと「環境カルタ」を制作した。そして、地域の環境NGOであるアースディこまつの支援を受け出版され、多くの小学校や保育園で使われるようになった。

ここではその経緯を報告し、学校と地域との連携について考えてみたい。

II. 環境カルタの製作

環境カルタの完成までの過程とその後の発展経過を表1に、カルタの制作と展示、編集の様子を図1に示す。環境カルタは授業で生徒たちが作ったものをベースとして、小学校教諭の助言を受けながらアースディこまつが編集した。財団法人省エネルギーセンターから経費の半額補助を受け、残りの半額はアースディこまつが負担して初版500部を制作した。完成した絵札と字札、および字札裏の解説の一部を、図2に示す。実際のカルタはA6サイズの厚紙で作られており、絵札はカラー多色刷り、字札は2色刷（裏の解説は黒一色刷り）で、絵札と字札各44枚、合計88枚が箱に詰められている。これを高校生たちが出身の小学校や保育園へ持参し寄贈して、実際に使ってもらおうようお願いをしている。また、各種マスコミによって紹介されたため全国から購入申し込みが寄せられ、500部の増刷を行なった。

III. 学校と環境NGOとの連携—その効果

学校と環境NGOが連携して制作された「環境カルタ」は、双方にとっていろいろな効果をもたらした。

まず、高校生たちにとっての効果であるが、彼らからの声を拾ってまとめると、以下のよう

表1 「環境カルタ」制作の過程

年・月	金沢泉丘高等学校(および教育関係機関)	環境NGO「アースディこまつ」
平成10年4月	三津野が1年9H(41人)のホーム担任で「地学I B」(週4時間)の教科担当者になる。環境に力点をのいた授業を開始。	(※三津野は会員。)
平成11年1月	「地球環境問題」の教材を授業で集中的に扱う。	
平成11年2月	「小学生が使える環境教育教材作りをしよう」と高校生に提案する。検討の結果、「環境カルタ」を作ることにする。各グループ8名、計5グループがそれぞれのカルタを制作開始。テーマはグループごとに①水問題、②ゴミ問題、③省エネルギー、④生物の多様性を守るために、⑤エコライフを考えよう、が選択される。	
平成11年3月	「あ〜わ」の絵札字札が5セット完成する。授業が終了し、ホームも解散。(図1a:制作風景)	
平成11年4月	「アースディフェスティバル'99」に生徒7名が参加し、環境カルタ5セットの各札を展示する。展示は好評を得る。	小松で「アースディフェスティバル'99」を主催する。
平成11年5月	寺井町役場より「環境カルタ」の展示要請が寄せられる。その後何件か、同様の要請が続く。	「環境カルタ」を1セットにまとめ、出版できないか検討を始める。
平成11年7月	環境カルタを泉丘高校の文化祭でも展示。(図1b:展示風景)	出版決定。カルタの編集作業開始。一部絵札に手を加える。(図1c:編集風景)
平成11年9月		読み札の裏に、カルタを使って授業ができるように、教員向けの解説を付けることを決め、執筆に入る。
平成11年10月		(財)省エネルギーセンターの補助金に本件を応募する。センターより採択決定、半額補助の通知を受け取り、500部印刷を決める。残りの半額はアースディが負担することとする。
平成11年11月	「環境カルタ」印刷終了し、完成。	
平成11年12月	1年9Hの生徒は、自分の出身小学校や保育所へ「環境カルタ」を持参し寄贈する。	通産省中部通産局長賞受賞の連絡を受け取る。
平成12年2月	生徒保護者の方々が、カルタの実費販売に協力を申しでくださり、販売開始(1部千円)。	財団法人省エネルギーセンターの全国事業報告会(東京)で一連の取り組みを報告。
平成12年3月		毎日新聞ほか各紙に紹介され、全国から注文が舞い込む。500部の増刷を決め、増刷代金を負担する。
平成12年5月		環境カルタを使った環境教育の出前授業を開始。以来、小松市内の小学校を中心に、10回前後出かける。
平成12年6月	三津野、金沢大学教育開放センターの講座で、本件を紹介する機会に恵まれる。参加者による「環境カルタ・開放センター講座版」も作る(字札)。(表2)	

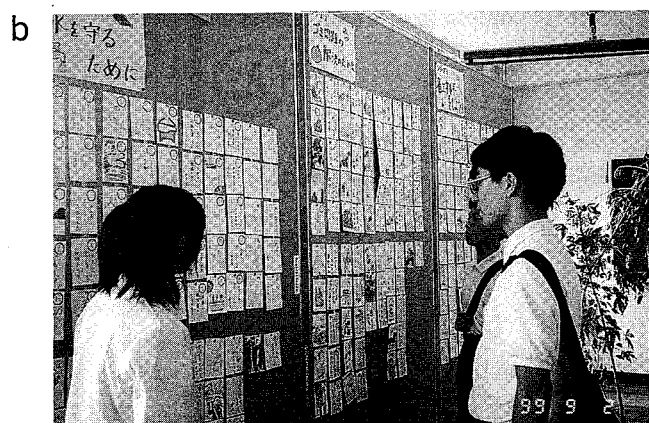


図 1

- a : 金沢泉丘高校でのカルタの制作風景。
 b : できあがった 5 セットのカルタを高校の文化祭で展示した。
 c : アースディこまつが良札を選び 1 セットに編集した。その選択風景。



あ
歩こうよ
それが地球に
やさしい人間

あ 歩こうよそれが地球にやさしい人間
ジャンル ライフスタイル
テーマ 歩くことの大切さ

この環境カルタの最初の札である「あ」が「歩こうよ」で始まっているのは、みなさんにいろいろなことを考えて欲しかったからなのです。私たちは効率を求めるあまり、「急いで」「もっと、もっと」「昨日よりも豊かに」「より賢くに」と走り続けてきたのではないのでしょうか。でもその結果、現在地球とその上に棲む多くの生物に少なからず被害が及んでいます。「歩こうよ」スタイルでは、ゆっくuriとした視点があります。「私たちは地球と様々な生物のおかげで、こうして生きている」と感じ、「本当に大切なものは何なのか」をじっくりと考えてみませんか。エコロジを学べば、自分の生き方も変わってきます。みんなで一緒に歩いていきましょう。(m)

制作発行 アースディこまつ
(財)省エネルギーセンター「地域省エネルギー活動広報支援事業」

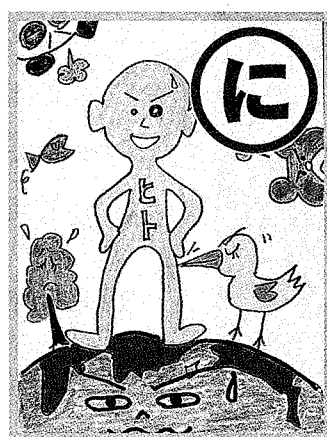


と
トラは
こわいけど
いてほしい

と トラはこわいけどいてほしい
ジャンル 共存共生
テーマ 種の保存

トラは、頭胴長1.4～2.8m、体重65～300kgで、ネコ科最大の動物です。シベリア、中国、インド及びその周辺の山々やアジアだけに分布し、亜種としてシベリアトラ、ベンガルトラ、ジャワトラ、バリトラ、アムールトラがいましたが、既にバリトラは絶滅しました。国際自然保護連合の定めるレッドデータブックでは絶滅危惧種に指定されていますが、生息数は現在も減少の一途をたどり、現在は5,000頭を切っています。一つの種が生息し得ない環境は、他の種へも影響を及ぼします。人間だけが生き残るわけではありません。昔から各国の伝説や文学にも登場してきたなじみの動物ですが、「伝説上の動物」にしてしまうか否かが、今私達に関わっています。(m)

制作発行 アースディこまつ
(財)省エネルギーセンター「地域省エネルギー活動広報支援事業」



に
人間が
一番えらい
わけじゃない

に 人間が一番えらいわけじゃない
ジャンル 共存共生
テーマ 人類のおごり

この読み札にギクリとさせませんか。私たち人間は地球上で様々な生物との共生を忘れてきてしまいました。その結果、多くの野生生物が絶滅の危機に瀕しています。例えば私たちに近い哺乳類各種の生息数は次の通りで、いずれも近い将来絶滅することが危惧されている種です。絶滅に追い込んでいるのは私たち人間であるという現実を直視し、共生で暮らす環境を取り戻すことが21世紀の課題です。→インドサイ2,000、インドライオン200、オランウータン4,000、シシオサル300、ジャイアントパンダ1,000、スマトラサイ100以下、トラ6,000、チーター6,000、マウンテンゴリラ400以下、イリオモテヤマコ100、ライオンタマリン100～200。(m)

制作発行 アースディこまつ
(財)省エネルギーセンター「地域省エネルギー活動広報支援事業」

図2 完成した「環境カルタ」の一部。A6サイズで絵札44枚、字札44枚（字札の表には解説付き）で箱入りとした。



も

もったいない
使えるものは
使おうよ

も もったいない使えるものは使おうよ
ジャンル ライフスタイル
テーマ もったいない気持ち

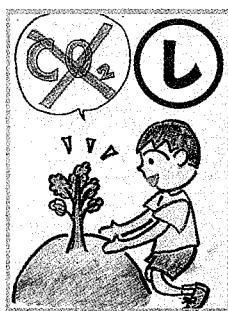
「もったいない」という気持ちを私たちは忘れて
いるのではないのでしょうか。以前、南米コロンビアに滞在し
たとき、人々がほとんどゴミを出さないことに感心しま
した。シーツは穴が開くまで使い、更にはおむつにする、
肉も牛乳も鍋持参で買いに行き、無駄な容器は使わない、
マイカーは20年は手入れして大切に乗り、子供の洋服
は兄弟や従兄弟等のお下がりでも何度も着る、バケツ1杯
の水で身体も髪も洗うetc.といった具合です。子供のオ
モチャも、トウモロコシの芯で作った人形やボロボロを丸
めて作ったサッカーボールくらい「こんなにモノを持
たなくても人間は生きていけるのか」と当時の私は感動
したものです。さて、私たち日本人の生活は…?(m)

制作発行 アースディこまつ
(財)宮城県エネルギーセンター(地域エネルギー活動広報支援事業)



さ

さあたいへん
川の汚れは
台所から



し

CO₂
へらすためには
木を植えよう



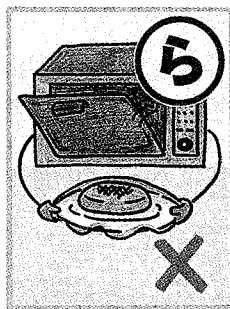
せ

洗たくに
使おうお風呂の
残り湯を



ゆ

ゆきあそび
できなくなるよ
温暖化



ら

ラップも
もやせば
ダイオキシン



れ

レジャーには
車に乗らずに
バス・電車

図2 (続)

になる。

- ・自分たちの作品がNGOの支援を受けることにより、全国規模に展開していった、驚くと同時に嬉しかった。
- ・親でも先生でもない「普通の大人」と話しあったり協力し合う関係がもてたことが良かった。(通常、高校生にはこのような機会は少ないようである。)
- ・自己の利益に結びつかないことに精を出す大人の存在を知ったこと。(つまり損得感情だけで動く大人が多いと、彼らは見ているということであろうか。)

また環境NGO「アースディこまつ」にとっては、次のような効果があった。

- ・自分の子ども以外の高校生と知り合い、話をする機会がもて、現代の若者について考えることができたこと。(上記同様、大人と高校生の交流は少ないようである。)
- ・カルタの編集作業に際し小学校教諭に協力を求めたことにより、小学校での環境教育の様子を知ったこと。
- ・学校での環境教育に興味関心が高まり、小学校へカルタを用いた出前授業をするようになるまで意欲が高まってきたこと。(地域の小学校と関わりを深める結果となった。)
- ・さらに自分たちオリジナルの環境教育教材作りに発展したこと。(平成13年4月に小学校の環境教育用の紙芝居が完成した。)

ここで、この学校とNGOの連携が比較的スムーズにいった理由のひとつに、三津野が高校教諭であり、かつアースディこまつの会員であったことが考えられる。つまり、学校と地域が連携するためには、学校や教員自身が地域に積極的に関わり、日頃からネットワークを持つことが必要である。ごく当たり前のことだが、実際はなかなかできていないことではないだろうか。(もし、筆者が選んだ総合学習のテーマが「人権」であつたら、きっと授業は困難だっただろう。)

今後、学校は「総合学習」を展開するに際し、学校内の施設や人材(教員)だけでは、すぐさま限界にあたるだろう。学校が地域に窓をひろげ、地域に出かけ、積極的に連携を取り合うための良いチャンスとして、この総合学習の時間は生かされていくと期待したい。同時に総合学習は、学校がオープンであるかどうか、ネットワークを持っているかどうかといった点で、学校や教員に投げかけられる試金石でもある。

IV. さいごに

平成12年6月、金沢大学大学教育開放センターの講座「楽しい地球学」の1回を三津野が担当することとなり、環境カルタを紹介する機会に恵まれた。このときの講座参加者の方々と「環境カルタ・開放センター講座版」(字札のみ)を考案したので、表2に紹介する。当日は、皆さんが五・七・五と指を折りながら、頭を悩ませ文句を考えておいでたが、楽しそうで和気藹々とした雰囲気であつた。

表2 金沢大学公開講座「楽しい地球学」グループが制作した「環境カルタ」読み札一覧

	読み札の文句	作者名	備考
あ	あまってる 深夜電力 使おうよ	相坂 一成	
い	いりません 袋はいつも 持ってます	岩田 泰子	
う	甘い話の裏にある 醜い話	二階堂 浩子	
え	* エネルギー だじな地球の たからもの	*	
お	おそれずに 環境改善 取り組もう	大谷 裕	
か	環境を 良くしようと 楽しく集い	高島 旦子	
き	君のできる 小さな環境改善が 地球を救う	木谷 隆二	
く	栗よりも 早くに根付く木がほしい	谷口 君子	
け	経済大国 便利な生活も ほどほどに	佐藤 大介	学生
こ	これからだ 地球環境 立て直そう	岡田 朋子	学生
さ	寒い日は 暖房つけず 綿を着る	出戸 真徳	
し	静かな海 みんなで守ろう 私たち	芝田 敏勝	
す	好きなんだ 澄んだ大空 この大地	安嶋 武	
せ	先進国 みんなで地球を 守ろうよ	横山 精士	学生
そ	そうめんを おいしくするよ キレイな水	岡田 朋子	学生
た	大気には NO _x SO _x CO ₂	縄谷 奈緒子	学生
ち	地下水も 無駄に使うな きりがある	山村 庄一	
つ	造ろうよ 青と緑の 大自然	辻村 剛	
て	天からの 恵み雪・雨 命綱	天野 耕兵衛	
と	とおくまで 飛んでくるよ 砂と鳥	谷 享	
〃	途上国 守ってあげよう われわれで	小坂 町子	
な	なくしよう 不要な包装 プラ・チラシ	南保 信之	
に	人間の 命は星(地球)の 与えもの	天野 耕兵衛	
ぬ	ぬ〜るぬる バイオマットは 地球を浄化する	佐藤 大介	学生
ね	寝るときは 必ず消します お部屋の電気	橋爪 克典	
〃	熱帯夜 クーラーつけずに 眠ろうね	佐々木 直哉	学生
の	後の世に 渡そうきれいな よい環境	中村 稔	
は	歯磨きの 水も工夫で 節水し	山口 他加子	
ひ	火の用心 二酸化炭素を 増やすまい	山岸 善久	
ふ	不必要 燃費の悪い 我が車	福澤 昭一郎	
へ	平和と環境 明日の地球	谷口 君子	
ほ	* 包装紙 なくてもいいよ お店屋さん	*	
ま	まてよ待て 飲もうか捨てよか 麺のツユ	高島 暁	
み	みんなして 気を付けましょう ポイ捨てを	南 松夫	
む	むっとした 夏も過ごそう 省エネで	名倉 利樹	学生
め	メダからの 学校復活 ビオトープ	杉本 洋二	
も	もらったり あげたりしてリサイクル	杉本 洋二	
や	休ませて あげよう電気の 差し込みも	山口 他加子	
ゆ	行く末に 不安を感じる 原子力	横山 精士	学生
よ	よかったね おいしく飲める このお水	谷 陽子	
ら	ラ・ラ・ラ・ラ 空気もきれい 山歩き	村田 明子	
り	利用しよう 何かにつかえる はずだから	脇元 理恵	学生
る	ルン・ルン・ルン やっぱ地球が 一番だ	佐々木 直哉	学生
れ	歴史から 学ぼう我らの 生活環境	名倉 利樹	学生
ろ	論は省エネ 第一歩	相坂 一成	
わ	ワールドで 考えようよ これからは	河村 俊久	

*：講座の当日作れなかった札なので、泉丘高校版の「環境カルタ」を紹介したもの。
備考欄の“学生”は、当日参加した金沢大学生によるもの。